

第3期中期目標期間を見据えて



大阪大学会館

—22世紀に輝く「世界適塾」へ—

皆様、明けましておめでとうございます。

昨年の年頭挨拶では、2014年を「世界適塾」元年とし、2031年に大阪大学が創立100周年を迎えた時、「世界適塾」として世界でトップ10に入る研究型総合大学になるという夢を語りました。さらに第1回世界適塾構想会議総会を7月に開催し、この総会のもとに基本構想などのワーキンググループが組織され世界適塾構想実現に向けての議論が進んでいます。第2回世界適塾構想会議総会を1月21日に開催する予定です。「世界適塾」の理念は「学問による調和ある多様性の創造」により心豊かな人類社会の発展に貢献することです。世界には言語、人、習慣、文化や宗教などの多様性が存在します。この多様性は革新的なイノベーションの創出や心豊かな人類社会の営みにとって不可欠です。一方多様性は負の側面として様々な障壁や紛争をもたらします。人類の歴史は多様性による発展と多様性をもたらす対立や戦争の歴史でもあります。人類歴史の中で過去に

例をみない次元でグローバル化が進む現在の国際社会では、多様性をもたらす負の側面が増々強くなり、様々な対立が世界に蔓延しつつあります。グローバル化が臨界点までに達すると考えられる21世紀は多様性の爆発の世紀になる可能性すらあります。21世紀のグローバル化社会においては多様性を維持しながら、多様性が生み出す障壁を乗り越えることが人類の発展にとり不可欠だと思います。

今の私の思いを俳句にするとこうなります。

去年今年世世を継ぐ夢空翔る

調和ある多様性の創造

大学は「学問の府」です。教育や研究活動により社会に貢献するという大学の役割は過去、現在、未来において不変ですが、21世紀の大学には更なる役割があるのではないかと思います。それは「学問による調和ある多様性の創造」によりグローバル社会に大きく貢献する

ことだと思います。学問は芸術、スポーツや経済活動等と同じく人類共通言語です。これら人類共通言語は様々な障壁を乗り越える大きな力を有します。学問を介する人材交流により、多様性の維持とそれが生み出す障壁の克服という、相反することの両立が可能となります。学問を介する世界規模での人材交流を今まで以上に推進する必要性がここにあります。大阪大学は世界適塾として、心豊かで平和な社会を実現するために自らの力を磨き上げ、学問を介して世界に貢献していかなければなりません。そのためにも学問レベルをあげて「世界トップ10」に入るような大学にならなければなりません。

大学の力の源泉は人や部局の多様性であり、研究や教育の多様性です。個の力の最大化を成し遂げることが大学発展の原動力です。しかしながら、学問の変遷やその多様性の増大に加えて、少子高齢化や国立大学法人運営費交付金の削減など、大学を取り巻く環境は大変厳しいものがあり、大学全体の力の最大化も図る必要があります。国立大学の法人化以降、国から大阪大学に交付された一般運営費交付金は、統合前の大阪外国語大学分を含めて、平成16年度の420億円から、平成26年度の384億円と36億円減少しました。これを平成26年度の部局配分額で例えますと、理学・医学・工学研究科の3部局への配分を合計した額になります。そして、第3期中期目標期間が始まる平成28年度からは、運営費交付金の配分方式が大学の存亡すらも左右する程に競争的になることが予想されています。昨年末の12月17日に内閣総理大臣主宰の産業競争力会議のワーキンググループにおいて、第3期中期計画を見据えた大学改革の基本的な考え方が、下村文部科学大臣より具体性と現実味をもって明示されました。その内容は昨年末に各部長に資料を配布しました。また既に政府公式ホームページなどを通じて周知されています¹⁾。注目すべきは、大学を3類型に分類したうえで、運営費交付金の3～4割を競争的に配分する計画です。さらにごく少数の大学を絞り込み特定研究大学(仮称)に指定する構想も盛り込まれています。本学が今後進むべき基本的方向性を考えるにあたり、極めて重要な決断を迫られる内容が多く含まれています。すなわち、今年1年は単なる1年ではなく、大阪大学の今後10年あるいは100年の道筋を決める大変重要で特別な1年です。しかしなが

ら、このような変化の激しい状況を千載一遇のチャンスと捉えることもできます。決して短期的な視野に立つのではなく、今こそ中長期的な視野に立ち、わたしたち構成員全員が阪大の将来を真摯に考え、如何にすれば大学全体の力の最大化を図ることができるかを真剣に考え、譲るべきは譲り、お互いが協力しあい、英知と力をあわせ、個の力の最大化と大学全体の力の最大化を志向することにより、文字通り大阪大学の夢が実現される好機とも考えることができます。そのためにもわたしたち大学構成員全員が夢や価値観を共有し、一人一人の英知と力を結集する必要があります。

昨年を振り返り今年を思う

昨年は創立100周年を見据えて大学のあるべき姿を考える意味で世界適塾構想会議を発足しました。そして総会の下に基本構想、キャンパス構想、病院構想、基金、第3期中期目標・中期計画といった分科会を設置して、様々な構想を検討していただいているところです。

平成24年に大阪大学未来戦略(2012-2015)を策定し、様々な取り組みを行なってきました。このタイミングで、政府は、学問分野のプロジェクト支援ではなく、大学全体の教育研究機能強化の取り組みに対する支援を重視する政策を全面的に打ち出しました。そういった方向性を先取りする形で本学は、平成24年度に「国立大学改革強化推進補助金」を獲得し、平成23年度に立ち上げた未来戦略機構による部局横断的な教育・研究マネジメントに積極的に取り組んできました。平成25年度には「研究大学強化促進事業補助金」を獲得し、国際ジョイントラボを創設するなどの研究力強化に取り組んでいます。さらに、平成26年度には「スーパーグローバル大学創成支援」を獲得し、「世界適塾」構想の実現のために必要なグローバル化、教育改革、マネジメント強化等の推進体制の整備に取り組んでいます。そして、年俸制やクロス・アポイントメント制度導入による人事・給与システムの一層の弾力化などの本学の取組姿勢に対して、「学長のリーダーシップの発揮」を更に高めるための特別措置枠として特別運営費交付金が追加配分されました。

こういった補助金を獲得したことで、大阪大学未来戦略機構も順調に発展し、現在5つの教育部門と4つの研

1) <http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/wg/innovation/dai4/siryu.html>

究部門が部局横断的な教育研究活動を実施しています。また、教育研究活動を分析・検証する機能と、戦略的提言機能を強化するため、機構内の戦略企画室にIRチームを設置し、IRを総合的に行う体制を構築中です。さらに、平成25年に開始しました国際共同研究促進プログラムによる国際ジョイントラボも現在13カ国からの著名な研究者が参画した22のラボが活動をしています。またクロス・アポイントメント制度も順調に経過し、昨年末時点で外国人9名を含む12名がこの制度により国内外から大阪大学の教育研究活動に参加しています。

昨年は新棟建設や耐震改修工事も順調に経過しました。すなわち、最先端医療イノベーション棟、文理融合型研究棟、緊急時対応および学生支援施設である多目的倉庫、サイバーメディアITコア棟、生命システム棟や総合図書館自動書庫棟が完成し、超高压電子顕微鏡新棟もほぼ完成しました。また、大規模改修としては、国際交流会館吹田分館、吹田留学生会館、豊中弓道場、法経講義棟、核物理研究センター本館、社会経済研究所A棟、工学研究科M1棟、総合図書館本館や総合図書館書庫棟、そして適塾といった施設の改修が完成しました。さらには、3キャンパスでのライフライン整備を年次計画に基づき実施しました。また、虎の門には東京オフィス、理化学研究所播磨事業所には大阪大学未来戦略光科学連携センターが開設されました。

そして、後ほど紹介しますように今年もいくつかの建物が新設あるいは改修されます。このように世界適塾に向かって、教育研究環境は順調に整備されつつあります。

本学学生の活躍も目立ちました。文部科学省が主催する事業、「サイエンスインカレ」では2年連続で全国最多の5組が受賞しました。また、「トビタテ!留学JAPAN」では女性7人が選ばれ、元気な「阪大なでしこたち」と話題になりました。ショセキプロジェクトによる学生手作りの本「ドーナツを穴だけ残して食べる方法」はベストセラーになりました。大学院生の糸谷君はプロ将棋の世界で竜王という頂点に立ちました。このような阪大生の活躍は、大阪大学の元気さ、未来の明るさを象徴しているようで、今年もいろんな分野で学生たちには是非チャレンジし、夢を叶えてほしいと期待しています。

また、忘れてはならないのが男性・女性といった性別にかかわらず、能力や個性を最大限発揮できる大学づ

くりの必要性です。すべての構成員の多様性は不可欠であり、大阪大学を男性・女性にかかわらず優秀な人材の宝庫とするために、昨年10月に男女共同参画担当の副学長を任命しました。今年をその本格始動の年とするために、是非、皆様方の御協力をお願いします。

では、平成27年からどのようなことを具体的に実行しようと考えているのかについてお話したいと思います。

教育改革

世界に通用する人材を育成するために各学部・研究科で定めた教育目標およびディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに沿った新カリキュラムを作成し、平成29年度より開始する予定です。また、海外との学生交流を盛んにするとともに、集中型・参加型の授業によって理解をより深められるよう、クォーター制(3学期制)を導入する予定です。さらに、部局ごとに定めたアドミッション・ポリシーに相応しい優秀な人材を獲得するために、グローバルアドミッションズオフィス(GAO)を中心として高等学校における課題研究などを評価に取り入れる世界適塾入試の準備を行います。これらの新カリキュラム、世界適塾入試、クォーター制は部局長会議や教育改革推進会議などでご議論いただき、平成29年度実施を目指して、東島理事を中心に各種委員会において具体的な検討をお願いしているところです。皆様方には移行にあたり大変なご苦勞をお願いすることになりますが、世界適塾を目指すためには重要な改革ですので、世界的な視野に立ち是非ともよろしくご協力のほどお願いいたします。

学部の正規留学生を増やすために、海外在住私費外国人留学生特別入試を平成28年度より実施します。この試験に合格すると10月から3月まで大阪大学において集中的に日本語の授業を受け、4月からは他の学生と同じように日本語で授業を受けます。大学院の正規留学生を増やすために、CAREN(Center of Asian Research and Education Network)の英語コースを中心にダブル・ディグリーやジョイント・ディグリー制度を拡大します。

日本人学生の海外留学を増やすために、実践英語力強化講座を提供するとともに、海外留学の経済的支援を行います。また、学部英語コースであるインターナショナルカレッジの英語による教養教育を日本人学生にも開

放し、留学生と日本人学生が交流する機会を提供します。さらに、昨年12月に誘致したカリフォルニア大学大阪オフィス(UC/UCEAP大阪オフィス)などを活用して双方向の留学や教員の交流を促進します。またカリフォルニア大学の助言を得て大阪大学サマースクール開設への準備を開始します。

教育改革を迅速に行うために、昨年、各部局の教育担当副研究科長からなる教育改革推進会議を設けましたが、これに合わせて教育関係の組織を整理再編して全学学修イノベーション機構を設置し、学部・大学院の教育改革を一体的に行う予定にしています。

また、海外に向けて大阪大学の授業のインターネット配信をedXのプラットフォーム上で今春から開始する予定です。

大阪大学の学生に早い段階で海外体験させるために、昨年は総長裁量経費で300人を超える学生の海外派遣を支援しました。各部局におかれましても積極的に海外派遣プログラムを開発していただくようお願いいたします。さらに、外国語学部を持つ唯一の研究型総合大学である大阪大学でしか育てられないような人材育成プログラムを開始し、外国語学部における24種の言語と他の10学部の専門性を身につけた240種類の人材を育てることをめざします。まずは、外国語学部の学生が文学部・人間科学部・法学部・経済学部の4学部の科目を履修できる、マルチリンガル・エキスパート養成プログラムを平成27年に開始する予定で準備を進めています。

また、未来戦略機構で支援してきた認知脳システム学研究部門などの異分野創発新学術領域や阪大の誇る先進学術領域を牽引する教員をコアとした、世界に羽ばたく飛び抜けた次世代研究者を育てるための卓越大学院である世界適塾大学院(仮称:新学術創造研究科)の平成29年4月設置を目指して、昨年12月に新研究科設置検討委員会を設置しました。この委員会の下に副学長を部会長とする基本構想部会を設置し全学的な検討を行っていきます。全学的なご支援、ご協力をお願い申し上げます。

研究推進

明日の大阪大学を支える若手研究者から現在の大阪大学を牽引している研究者まで、本年も包括的に支援し

ていきたいと考えています。

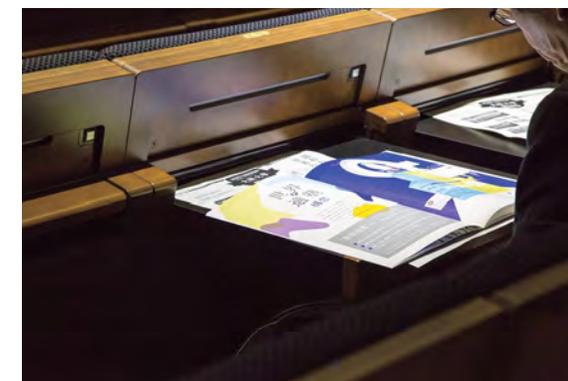
特に、若手研究者の支援策として、キャリアアップ支援プログラムの充実を検討していきます。39歳以下の若手100名を目標として、研究費の面から支援するプログラムで、科学研究費補助金に惜しくも採択されなかった教員に対して、1年間大学独自財源で支援する計画です。研究の多様性を確保するとともに、少しでも多くの研究の芽を育てたいと考えています。

未来戦略機構の研究推進部門には創薬、認知脳や光科学などの3部門に加えて、昨年10月に、「グローバルヒストリー研究部門」を立ち上げました。大阪大学をグローバルヒストリー研究の国際的ネットワークの中核に位置づけ、大阪からの国際的な情報発信と人材交流を推進していきたいと思ひます。引き続き、未来戦略機構の研究部門の充実にも努めていきます。

研究環境のグローバル化の中核として国際共同研究促進プログラムにより開設された国際ジョイントラボを近い将来100研究室に増やすことを目指し、プログラムを推進していきます。大阪大学のキャンパスで、海外の研究者と共に最先端の研究をすることは、研究者のみならず学生諸君にとっても、草の根からのグローバル化ならびに研究の発展につながるものと期待しています。特別教授制度、評価連動型年俸制、クロス・アポイントメント制度等、本学が推進している柔軟な人事給与制度との組合せにより、各部局では、このプログラムを積極的にかつ有効に利用していただければと思ひます。

産学連携・情報化推進

法人化と同時に大学の実質的な産学連携もスタートしました。10年を過ぎた今、オープンイノベーションを目



的とする新たなステージになっており、共同研究講座・協働研究所制度や知財戦略などの在り方もこの変化に対応する必要があります。

平成25年にスタートしたCOI事業は、20年後の社会のニーズ予想をしたうえで、その課題を解決するためのイノベーションが要求されています。加えてリーダーは外部から起用するという新規なプロジェクトとなっています。人間力の向上をテーマに、多数の企業と異なる分野の研究者が協力する形で進めています。

今年は、産業競争力強化法の改正にもとづく「官民イノベーションプログラム」が本格的にスタートします。大阪大学に割り当てられた総額200億円の資金をもとに10年間活動します。その中心として、昨年末に大阪大学ベンチャーキャピタル株式会社を、100%出資子会社として立ち上げました。国立大学にとって初めての出資事業であり、大学の技術・知恵を基盤として、民間とも協力しながらベンチャーファンドを立ち上げ、新しい産業を生み出すという大きな社会的使命を持っています。大阪大学のイノベーションマインドを高める絶好の機会とも捉えています。多くの教職員の方々の提案・協力を期待しています。

教育・研究・大学運営を支援するための、情報通信ネットワークシステムが、今年から大幅な再構築の時期に入ります。サービスの高度化と同時に、いかに無駄なく効率的・統一的に構築を進める必要があります。関連部署の密な相互協力で進めていきたいと考えています。

国際戦略

「国際交流から国際戦略への転換」を図るべく、「国際戦略推進機構」を創設し、新たに策定する国際戦略に基づき、全学的な取組みを着実に推進します。

昨年4月には海外拠点を見直し、「北米センター」、「欧州センター」、「ASEANセンター」、「東アジアセンター」を地域の中心として位置づけました。また、学内においては、「グローバルキャンパスの早期実現」を推進するための一環として、豊中キャンパスにカリフォルニア大学(UC/UCEAP)のオフィスを昨年末に新しく開設しました。

これらの新たな基盤となる施設を活用するとともに、多国間・二国間国際ネットワークや2013年度から開始した国際ジョイントラボや本学が既に締結している多数



の大学間交流協定や部局間交流協定を有機的に連携させ、「世界適塾」の確立を進めていきます。具体的には、環太平洋大学協会(APRU)、東アジア研究型大学協会(AEARU)、日英大学連携(RENKEI)、日独6大学コンソーシアム(HeKKSaGOn)などの多国間・二国間ネットワークによる学長会議やワークショップの開催やプロジェクトを企画、実施していきます。

特に、APRUについては、「University as an Agent for Global Transformation」として、21世紀における大学のミッションを再考し、大学の役割を考えるとともに、日本における高等教育について理解を深める機会を提供すべく、45大学の学長や関係者が参加する年次学長会議を6月に本学がホストとして大阪で開催し主導的な役割を果たします。

柔軟な人事・給与制度の構築

優秀な人材は大学にとって最も重要な資産であり、本学では人事に関するシステム・運用の柔軟化を積極的に進めてきました。

昨年は、国際的に優れた研究者等を対象とした評価連動型年俸制やクロス・アポイントメント制度を新たに導入しました。さらに年俸制に関しては、主に新規採用教員を念頭に置いた新たな制度をこの4月採用者から適用し、研究者の流動化など世界の趨勢に適時・適切に対応していきます。

また、全国に先駆けて導入したクロス・アポイントメント制度については、各部局の理解も進み、特に外国人教員への適用に大きな研究上のメリットが認められます。今後とも様々な活用方策・支援策を検討し抜本的に拡充する予定です。

このほか、来年度から教員系・事務系に次ぐ第三の職種としてURA(リサーチ・アドミニスレーター)を制度化し、専門的な調査成果を用いて本学の教育研究活動の基盤をより強固にします。

このように近く予定しているものも含め人事に係る第一段階の改革施策は概ね提示しましたが、まだ工夫・改善の余地はあると考えます。各部局におかれては、こうした制度を積極的に活用して優秀な人材の獲得・育成に取り組んでいただくとともに、人事や組織運営に関する建設的なアイデアを積極的に提案くださるようお願いします。

財務面の検証と新たな財源確保

平成28年度から始まる第3期中期目標期間においては、一般運営費交付金の3割から4割が競争的に配分される方向で検討が進んでいます。大阪大学のみならず全国の国立大学は今まで以上に競争的環境にさらされます。このような運営費交付金の変化に対応できるように、昨年ワーキンググループを設置して対応案を策定いたしました。部局長の皆様にも対応案に賛同いただき、当面の平成27年度の学内予算の配分方法を変更させていただき運びとなりましたが、今年1年かけて第3期中期目標期間中の学内予算配分の抜本的なあり方を皆様と共に検討し、来る大競争時代に備えたいと考えています。

大学の教育・研究のための財源を確保するためには、大学構成員の一人一人が科学研究費補助金などの外部資金を獲得していくことがこれまで以上に重要となります。大学執行部でも、国立大学改革強化推進事業費、研究大学強化促進事業費、学長のリーダーシップ特別経費やスーパーグローバル大学創成支援事業などの新規の競争的資金を獲得してきました。これら新たに獲得した財源により、世界トップ10に向けた部局マネジメント及び人材育成・獲得支援策等、世界適塾構想実現のための様々な支援策を実行してきました。今後も執行部としては、世界適塾構想実現のために、競争的外部財源の獲得に全力を上げていきます。

そのうえで、大学独自の財源の確保が不可欠です。つまり、大阪大学未来基金の充実です。一昨年、世界トップ10の夢の実現のために、「創立100周年ゆめ募金」をスタートしました。昨年、基金の受入額は30億円を超えましたが、2031年までに大阪大学未来基金を100億

円以上にすることが目標です。また、阪大関係者の人の輪を広げるために、昨年新たに卒業生室を設置しました。卒業生室は、本学を卒業・修了した方々と生涯を通して関係を維持し、交流を深め、共に発展していくための施策を企画、立案し、推進していきます。大阪大学を卒業してよかったと卒業生に実感してもらえるようにしたいと思っています。

広報戦略と社会学連携

大阪大学ブランドの確立のため、原点である「適塾」と「世界適塾」をイメージづける「ブランディング戦略」を積極的に進めていきます。大阪大学のプラスイメージを国内外に示し、知名度を獲得するため、大学ホームページを引き続き充実させ、インターネットによる広報活動を強化していきます。また、HandaiGlobal(メールマガジン)による本学の活動や魅力、NatureやScienceによる研究成果のPRなど、広報活動を強化していきます。

さらに、世界各国で活躍する大阪大学卒業生などへの称号付与や阪大卒の帰国留学生とのつながりを大事にしながら阪大海外ネットワークの構築を継続していきます。

国内においても阪大ブランド力のアップを進めます。東京オフィスを活用した東京方面での広報、大学説明会やシンポジウムの開催、広告や記事提供などでの新聞社や企業等とのタイアップを行っていきます。国内卒業生ネットワークの構築などを積極的に推進していきます。

本学は、「地域に生き世界に伸びる」をモットーとしており、積極的な社会とのかかわりとして教育実践や研究活動に係る成果を公開講座、講演会、シンポジウムなどを通じて一般市民の方々に届けています。これらの活動をさらに発展させるため、アウトリーチ活動を推進し、社会からの理解と信頼を得るため、本学構成員のアウトリーチマインドを涵養し、継続的なアウトリーチ活動を実施し、充実していきます。また豊中市、箕面市、吹田市、大阪市や大阪府などの地元自治体との連携を推進し地域社会へ貢献していきます。また中之島センターと適塾との連携を強化させ、大阪での大阪大学のプレゼンスをより高めていきます。

事務組織改革

教育・国際に係る学内体制の整備に併せ、本部事務

機構の企画機能と連動した部局事務体制を整備し、教育・国際面の改革施策を全学的に滞りなく行い得るようにします。また、今後の改革を担い得る若手人材を確保するため、採用ポリシーを明確にし、本学を心から愛し、かつ、国際対応等の専門的知識技能を備えた人材を採用します。それとともに、人事配置や能力開発にあたっては改革の実施を担い得る資質能力の修得を重視していきます。

これらに加え、各部局の未来戦略達成のための工夫を凝らした取り組みに対する報奨制度の強化や事務(部)長未来戦略裁量経費制度の改善を進めていきます。

なお、英語表記による学内通知を一昨年10月から開始し、今後さらにその拡大に努めていく予定です。

環境整備

他の国立大学に先立って、計画性のある施設老朽化対策制度を平成24年度から実施し、平成26年度は22部局34件の事業を行っています。27年度もこの制度をフルに活用し、計画性を持った快適なキャンパスのための施設維持を行っています。

大阪大学のキャンパスでは前述しましたように、随所で新規教育研究棟や耐震工事などの施設工事のための土煙が立ち上っており、大阪大学における耐震化工事は本年3月までに全体の95%が完了予定です。そして、工学研究科M3棟が本年1月に、情報系基礎研究・福利厚生複合新棟が5月に、医学部附属病院オンコロジーセンター棟が6月に、それぞれ完成の予定です。一方、3月には工学研究科A12棟・プラズマ実験棟・U5棟、理学研究科E棟、サイバーメディアセンター本館、および薬学研究科1号館といった大規模改修がそれぞれ完成予定です。

このように、本学の教育・研究環境は飛躍的に改善されてきましたが、今年は、外国語学部のさらなる整備策の具体化にも取り組みたいと考えています。

さらに、学寮・教職員宿舍の計画的整備の一環として、世界適塾構想実現のシンボルともいべき留学生・日本人学生・教職員混住型の学寮「世界適塾ビレッジ」の整備に着手します。同ビレッジは、単なる居住空間の提供にとどまらず、世界に活躍するグローバル人材育成

の拠点と位置付けます。このプロジェクトでは、平成29年度からの第1期計画で、学寮297戸、教職員宿舍200戸、看護師宿舍200戸を整備し、最終的には、学寮2000戸、教職員宿舍600戸、看護師宿舍200戸を計画しています。

大学キャンパス内での受動喫煙をなくすため、平成24年に「喫煙対策ワーキンググループ」を設置し、そこで策定されたロードマップに従い、キャンパスにおける屋外の喫煙場所は順次削減されています。昨年には3つのキャンパスに卒煙ブースを設置するとともに、今年の4月にはすべての屋外喫煙場所はなくなる予定で、平成29年4月からのキャンパス内全面禁煙の実施に向かって進んでいます。

また、学内保育施設3箇所に加え、来年度には待望の病児・病後児を受け入れる保育室を開設する予定であり、教職員の皆様が安心して働ける環境作りを進めていきます。

リスク管理

心身ともに健康で快適な環境の維持のため、引き続き学内の安全衛生対策、ハラスメント事案に対する対応に取り組んでいきます。

昨年6月に改正労働安全衛生法が成立し、本年12月からはストレスチェックが義務化されることにより、来年度からは教職員の皆様のストレスチェックも実施する予定にしています。より早期にメンタルストレス対策を講じることができるような取り組みを行い、メンタルヘルス対策の充実・強化に取り組んでいきます。

また、公的研究費の適正なる取り扱いならびに研究者倫理の徹底、中でも公的研究費の適正なる取り扱いについての教育の徹底に取り組んでいきたいと考えています。昨年4月より、研究費の適正なる取り扱いの徹底を図るため、コンプライアンス推進責任者を任命し、組織としての責任体制を整え、研究者として守るべき規範の再確認、ならびに本部、部局、研究者個人のそれぞれの責任の明確化に向けて努力してきました。本年は、全学の協力体制のもとに、新たな不正事案が発生しないように皆様とともに努力したいと考えています。

研究における不正行為の防止に対する体制も本年中に整える予定にしています。実施に際しましては、皆様

のご協力をお願いします。

教職員の皆様には、大学人としての見識を疑われることのないよう厳しく自らを律するとの固い決意をしていただきますように重ねてお願いします。大学としても、不祥事に対しては厳正に対応していく所存です。

そして最後に

平成23年8月26日に総長に就任して以来、本日まで部局長をはじめ、教職員や学生の皆様方との対話をあらゆる機会を捉えて行なってきました。また大学執行部による部局訪問を行い、研究活動等を説明していただくとともに意見交換をしてきました。今年も引き続き皆様方との対話を積極的に行なうとともに、皆様方の意見を可能な限り大学運営に活かしていきたいと考えています。

冒頭でも述べましたが、平成28年度にスタートする激変の第3期中期目標期間を前にして、平成27年は阪大の将来を決める大変重要な特別の1年になります。今年1年間は、将来に対する大きな決断を行なうとともに、様々な案件を適切にかつ迅速に処理しなければなりません。執行部としましては第3期中期目標期間をスムー

ズにスタートできるように、あらゆる努力を惜しまない覚悟で望んでいく所存です。皆様方の引き続きのご理解、ご尽力、ご協力の程よろしく申し上げます。

創立100周年を迎える2031年までに、大阪大学が「世界適塾」として、世界でトップ10に入る研究型総合大学になる。そして、「学問による調和ある多様性の創造」により心豊かな人類社会の発展に貢献する。このような夢と理念を皆様と共有し、この夢と理念の実現のために皆様と一緒に平成27年も目の前の山を一つ一つ登りきりたいと思います。

初日の出阪大の夢今昇る

最後に、皆様方のご健康とご活躍をお祈りして、私の新年の挨拶に代えさせていただきたいと思っております。ご清聴ありがとうございました。

平成27年1月5日
大阪大学総長

平野俊夫



総長・理事から
みなさまに
新年の
ご挨拶

去年今年世世を継ぐ夢空翔る
初日の出阪大の夢今昇る



平野俊夫

ガンバ三冠！
大阪大飛躍
めざそう世界適塾



恵比須 繁之

旧年中は短期間にも拘わらず世界適塾入試に向けた
入試改革にご協力頂き大変ありがとうございました
国立大学改革プラン加速期間にあたる今年には、認証評
価を受けるとともに、平成二九年から始まる新学事暦
と新カリキュラムに向け準備を行う予定です



東島 清

こころ怯むことなく
出資事業が始まります
新しい仕組みでの新しい試みです
新しい年を作りましょう



馬場章夫

新年おめでとうございます
大阪大学はチャレンジするひとを
応援いたします
龍馬さんも、「世の中に失敗ちゆうことは
ありやせんぞ」と申されております

相本 三郎

Cool Heads
but Warm Hearts



OHTAKE Fumio

迎春

嘉肴ありといへども食せざればその味ひを知らずとは、國治まつ
てよき武士の忠も武勇も隠るゝに、たとへば星の昼見えす夜は乱
れて現はるゝ、ためしをこゝに……
「匿名手本忠臣蔵」大岸

改革の只中であって、事が起こるたびに学内のいずこからか
現れる、綺羅星のごとき良識と熱い魂にただただ感動させら
れるばかりです。
本年もなにとぞよろしく御願ひ申し上げます。

大木 高仁

人心新歲月
春意旧乾坤

宋・真山氏『新春』より

今年も一緒に頑張りましょう



岡村 康行